

資料

2. 構想調書の概要

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間		ふりがな		おおさかふりつきたのこうとうがっこう			②所在都道府県		大阪府		
26～30		① 学校名		大阪府立北野高等学校							
③対象学科名		④対象とする生徒数						⑤学校全体の規模			
		1 年		2 年		3 年		4 年		計	
文理学科		160		158		161				479	
⑥研究開発構想名		「アジアと学び合う一夢を実現する国づくりー」									
⑦研究開発の概要		以下のような研究を実施することで、実践的グローバル人材育成の教育プログラム開発を行う。 ・ 東南アジアの現状を知って、東南アジアの国づくりを知るための研究 ・ フィールドワーク法等、研究手法の習得に関する研究 ・ 論理的説明能力を養成するための統計的手法の習得に関する研究 ・ 外国人をはじめ様々な人々との交流と研究成果の検証評価に関する研究 ・ 「超高校生レベル」の英語によるコミュニケーション能力を養成する研究 ・ グローバルなプレゼンテーション力を養成する研究 ・ 海外研修と研究成果向上との関係に関する研究									
⑧研究開発の内容等		⑧-1全体		(1) 目的・目標<目的>全地球的視野と歴史的教養に裏付けられた、豊かな人間性と知識をもち、自国の問題と世界の問題を互に関係づけてグローバルな社会課題を把握し、その解決と理想の実現に向けて自ら行動をおこすことができる人材を育成する。 <目標>多様な人々と共に感じ、考え、行動する資質を備えた次代のリーダーを育てるため、以下の観点から教育プログラムを開発する。 ・ 若い世代に、留学・社会貢献活動・ビジネス等を通じ、地球規模で活躍しようとする意欲を喚起する。 ・ 他国の国づくりを学び、自国の国づくりに生かすなど、他者との学びを問題解決に生かす視点と能力を育成する。 (2) 現状の分析と研究開発の仮説 <現状分析> ①高い進学意欲と進学実績に示される、充実した基礎学力 ②諸大学と連携しながら、長年にわたり幅広く展開してきた探究型授業の蓄積 ③校内外・海外で実施してきた、手段としての英語スキル習得プログラムの実績 ④TOEFL iBT complete test の結果、発信力が劣っていることが判明。 <課題>①②③に示した実績は、それぞれに生徒の資質向上に効果をもたらしてきたが、その高い能力をより大きな視点から、何のために、どのように発信すべきかという主体的発信力の養成に関する学びの場と機会が不足していたことが大きな課題であると判明。 本校のこれまでの取り組みを発展的に生かし、かつ、現実社会に学びつつ、アジア地域を対象とした研究と交流を通して能力の総合的活用力を向上させる教育プログラムの研究開発を企画した。 <仮説>①現状の生徒の能力や本校の取り組みの実績を基礎として、新たな教育プログラムに取り組ませることで生徒の基礎力を高めることができる。②新たな実践的探究型教育プログラムを開発し、そのプログラムの実践を通して、生徒は世界の多様な人々と問題意識を共有するようになり、グローバルスケールでの思考力・発信力が身に付き、真のグロ							

	ーバル人材となる。 (3) 成果の普及 ・本校主催国際会議を開催し研究開発成果を発表。議論により学びを深める。 ・大阪府指定 GLHS(進学指導特色校)主催、京大キャパスガイドやGLHS 10校合同発表会で英語による研究発表を行う。 ・学校ホームページで日本語、英語により研究成果を全世界に発信する。 ・近隣の小中学校や地域住民を含めた一般参加型公開発表会を実施。 ・グローバル企業内での部門会議へ参画及び提言と実践。(予定)
⑧ -2 課 題 研 究	(1) 課題研究内容 成長著しい東南アジア諸国を比較文化的、経済的、歴史的アプローチ等で探究し、得られた成果を日本の国づくりに生かす。 (2) 実施方法・検証評価 ① <比較文化的アプローチ>日本国内とアジア諸国の広告表現(デザイン・コピー)などを切り口に探究・考察する。 ② <経済的アプローチ1>実際に進出している企業を事例に取り上げ、日本企業の東南アジア進出状況や経済的問題の背景について探究・考察する。 ③ <経済的アプローチ2>自然災害の多い点で、日本と東南アジアは共通している。進んだ防災技術を持って東南アジアに進出している日本企業を事例に取り上げ、日本企業の東南アジア進出における課題と可能性について考察する。 ④ <歴史的アプローチ>東南アジアの国づくりに重要な役割を果たした「労働力の移動」としての移民問題について探究する。 専門家による検証評価を受ける。 (3) 必要となる教育課程の特例等 特になし
⑧ -3 上 記 以 外	(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 必要に応じて「グレード1・グレード2」を設定。 ① <基礎力養成部門>研究手法、統計処理法、地政学等の基礎知識の習得。 ② <交流部門>研究指導者・留学生などと交流会をもち、研究成果の発表と意見交換を実施し、次年度への課題を設定する。 ※①は検定試験を実施。②は研究者の評価を受ける。 ③ <語学養成部門> i. 「TOEFL iBT SEMINAR」外国人講師を採用し、英語科教員とともに、英語のみを使用した講座を実施する。到達度の把握のために年に2度、LAN 教室にてTOEFL iBT complete test を実施し検証する。 ii. 「ハワイ大学マノア校での次世代リーダー養成プログラム」ハワイ大学マノア校と連携し、全て英語の語学セミナーを実施し、英語によるディスカッションの研修を実施する。研修後のレポート作成や生徒向けアンケートから研修の成果を検証する。 (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実組内容・実施方法 ①「学内留学講座」週あたり1コマ、通年で実施。「法学」「経営」「教育」「心理学」「サイエンス英語」の5コースに分かれて、外国人講師により、英語で授業を実施。 ②アメリカセントウッド高校との相互短期交換留学及びインターネット会議。 ③台湾第一女子高級中学校、建国高級中学校との交流と共同研究の実施 (4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入) なし
⑨その他 特記事項	特になし